

令和5年度 多摩市立多摩中学校 学校評価書

学校教育目標	
自立・共生・創造	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
コミュニティ・スクールとしての地域・保護者との協働による教育実践 (他者を尊重し、国際社会で活躍できるグローバルな人材の育成)	
目指す子供像	目指す教師像
<ul style="list-style-type: none"> 自らの問題に対して主体的に取り組み、解決しようとする生徒 思いやりの気持ちを持ち、地域に根差し他者と協働する生徒 想像力に富み、広い視野をもって物事を創造しようとする生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 研修に積極的で高い専門性と指導力のある教師 個を大切にし、生徒理解に長けた教師 柔軟性があり、マネジメント力のある教師

I 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	新学習指導要領の理解と適正な評価の実施。 地域の力を活用した学力の向上。			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
地域に根ざした ESD・SDGsの実践でグローバルな人材育成を推進する(関連した取組 5 回以上)	4	地本等の外部との連携ができた(伝統文化継承会・芋煮会・ドリムマップ・養蜂・各種検定等)	A	地域との連携がまだ一部の教員にとどまっているところがある。
新学習指導要領を理解し、適切な評価を実践できる教員の割合 100%	3	年度当初と年度末に校内研修を行い、研鑽を深めたが、まだ十分とはいえない。	B	保護者にとっては、学習指導要領について理解することは難しい。
地域未来塾の参加者の満足度 80%。	3	個に寄り添った丁寧な指導を行い、生徒の反応も上々であった。アンケートは今後実施予定。	B	学べる場があり、手助けできる大人がいるのは大切である。
評価のまとめ	様々な外部団体との連携を行うことができた。 特に第3観点についての評価については、まだ深めていく必要がある。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	いじめ未然防止への取組と道徳科の授業による心の醸成			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
いじめ未然防止等への取組実践(のべ5回以上)	3	教師への研修等による啓発を3回実施した。生徒への取組は道徳含め多数行った。	B	いじめ未然防止等の取組が積極的に行われている。不登校生徒が減っているのは何よりである。不登校の保護者や本人に多岐にわたる情報を提供してほしい。
不登校生徒への組織的な対応の取組実践(不登校生徒数が前年度を下回る)	4	定期的な子ども支援委員会の開催と内容の充実を図った。不登校生徒が6.4%から4.9%に減少。	A	道徳教育が子どもたちの人間性や社会性の向上に寄与すると期待できる。
全教員による道徳授業の実践と授業時数の適正な実施(全学年実施。時数 100%実施)	3	ローテーション方式による道徳授業の実践。授業は適正時数を実施した。	B	
評価のまとめ	いじめの定義や未然防止・早期対応方法など、教員に対する研修は早い段階から実施できたが、十分浸透したとは言えない。子ども支援委員会やピアティーチャー活用などの組織的な対応により、不登校生徒の減少につなげることができた。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	健康・運動への理解及び意欲の増進			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
東京都スポーツテストの半数以上の種目で前年度越え	2	男子全24項目中 12 項目、女子全24項目中 10 項目で前年超え	B	半数近くの項目で前年度を超える数値であれば、自己評価は3でもいいのでは。
部活動への参加率80%越え	4	部活動への参加率は89%であった。	A	部活動への参加率が大変高いと感じる。
オリンピック・パラリンピック教育の成果を生かした体育・健康教育の充実	2	「自力 de 弁当」の実践により、食から健康について考えさせることができた。	B	多くの保護者は、部活動の役割を重要視している。
評価のまとめ	スポーツテストにおいて、前年度の記録を上回った種目数が減少した。また、東京都の平均値を上回った項目は男子4項目、女子10項目であった。今後は、体力の向上を目指し、より工夫した実践が必要である。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	コミュニティ・スクールと地域学校協働本部との連携強化 アフターコロナにおける行事の見直しと工夫による教育実践			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
地域と共にある学校づくり (地本を活用した事業の5回以上の実施)	4	地本との協力により、多数の事業実践を進めることができた。	A	地本との連携で子どもにとって有意義な学びや体験を提供してもらっている。
HP の充実や地域行事への参加等による発信力強化 (HP の更新週1回以上)	4	HP 更新はほぼ毎日更新を行い、外部への発信を強化した。地域行事への参加回数が増加した。	A	HPを見ると学校の様子がよくわかる。地域の取組や協力を紹介することで学校と地域の関係性を深める効果が期待でき、更なる改善等にもつながる。
行事において、コロナ前の形式・規模による実施を進める (実施率 80%以上)	4	ほぼ全ての行事でコロナ以前の形式もしくはブラッシュアップした形で実施できた。	A	
評価のまとめ	地域学校協働本部との連携により、様々な体験活動を実施することができた。ホームページの更新回数やメール発信回数を増やすことができたが、更なる内容の充実が課題である。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

<p>見通すことが難しい状況や不確定要素が多くあるが、学校としてはコミュニティ・スクールとしての基盤の上に、創造的な学校教育を展開できるよう一層の連携や協働を組織的に行い、今年度の成果と課題をふまえて次年度に向けた準備を進めていく。</p> <p>地域の行事や環境美化活動など、ボランティアとしての参加機会を増やしていくことで、地域活動に教員や生徒が積極的に関わり、地域貢献を果たすとともに、地域との交流・連携を深めていく。</p> <p>生徒・保護者からの相談等に対しては、スクールカウンセラーや外部機関との連携を深めて親身な対応を行っていく。また、研修等を通して教員の教育相談に関する資質・能力を向上させていくとともに、生徒の心の醸成を図ることで健やかで思いやりのある気持ちを育て、よりよい人間関係を構築させていく。</p> <p>健康増進・体力向上への意欲を高め、健康維持増進活動や体育的な活動を活性化させていく。</p>
--

以上のとおり報告いたします。

令和6年 2月26日

多摩市立多摩中学校 校長 齊木 伸郎

公印

令和5年度 学校評価書



多摩市立多摩中学校